

# おやぢしんぶん



第六十一号 平成 30 年 9 月 8 日  
発行元：東京都自閉症協会おやぢの会

## ○「NPO 法人くるみ-来未」訪問記

最近、父親たちが作った団体がいくつも立ち上がっており、それぞれの地域で活躍しています。今回は我々おやぢの会の仲間である川崎の太田修嗣さんが立ち上げた、NPO法人くるみ-来未（以下「くるみ」）を紹介します。

蒸し暑い日が続く 8 月のとある日、太田さんの自宅兼くるみの事務局となっている川崎市内某所のマンションを訪問しました。太田さんは電気機器メーカーに勤務するサラリーマンで、特別支援学校高等部に通う息子さんと二人で暮らしているシングルファザーです。当日は太田さんご本人と息子さん、くるみ会員であり川崎市自閉症協会おやぢの会代表を務める島根さんが出迎えてくれました。



くるみ理事長の太田さん（左）と会員の島根さん（中央）、杉山（右）  
撮影者は、太田さんの息子さん。

太田さんがくるみを設立したのは 2014 年 2 月ですが、NPO 法人を立ち上げようと思ったのはそこからさらに 3 年前です。太田さんは息子さんが小 2 の時に川崎市で生活を始めましたが、父子家庭で障害のあるわが子の子育てと仕事を両立させるのは本当に大変で、なんらかのサポートがないと子育てはできないと危機感を感じたそうです。そのころから川崎のおやぢの会に参加していましたが、おやぢの会は飲み会を通じた情報交換やピアカウンセリングが中心であり、父子家庭の太田さんが小学生の子どもを連れての参加はなかなか難しく、ここでは自分が思う活動を行うことは難しいと感じたそうです。太田さんが思う活動とは、“子どもと一緒に参加できる場を作ること”であり、これがくるみを立ち上げる原点となっています。

くるみを立ち上げる以前、地元の特別支援学級の仲間たちと「親子の会」を作り、月 1 回体育館に集まって親子で運動するといった活動をしていましたが、太田さんご自身はこの活動をさらに発展させるため、NPO 法人の設立を決意しました。

NPO 法人を設立するためには 10 人以上の仲間（会員）を集める必要があります。この仲間探しは NPO 法人を立ち上げるうえで一番苦労したところで、約 1 年半かかったそうです。太田さんの思いに共感し入会までしてくれる人は 10 人に声をかけて一人いるかどうかだったのですが、その過程で島根さんのように志を共にしてくれる父親たちと出会い、さらに父親たちを通じて学校の先生や専門家など支援者の方の輪を広げ、ママさんたちにも仲間に加わってもらい、10 人の仲間を集めて NPO 法人設立にこぎつけました。現在、くるみの会員は 16 人で、当事者・家族・支援者を含め 150 人規模のコミュニティになっています。

くるみでは「自閉症スペクトラムに代表される、多様な特性のある本人と家族の QOL（生活の質）を向上することにより、一人ひとりがその人らしく豊かに生きることが出来る社会を創る」を法人理念として掲げています。太田さんの息子さんはこだわりが強く、これまでにまわりから排除されるような場面がたくさんあったそうです。太田さんは「特性があるがゆえに排除されてしまうような社会は豊かな社会ではないと思う。いろいろな特性をもつ一人ひとりがその人らしく豊かな地域生活を送れるような社会を作りたい。小さくてもいいから排除しない社会を作りたい」と願っており、この願いがくるみの理念になっています。

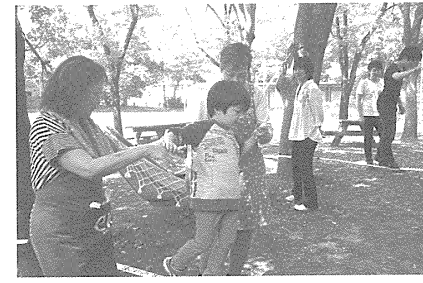


くるみのロゴマーク

現在のくるみの活動の中心は、親子で参加できる各種イベントです。コンセプトは“ゆるく、たのしく”であり、これまでもお弁当作りやアウトドアクッキング、遠足やハイキングなど、月 1 回の頻度で開催しています。特にお弁当作りは、シングルファザーの太田さんが得意とするアイテムで、手軽にとりかかるとても良い活動だそうです。そのほかに保護者向けのセミナー、映画の上映会、地域の中学校・特別支援学校の教員を対象とした研修会、ガイドヘルパー養成研修会などを開催しており、活動への参加者はのべ 900 名に達しているそうです。



コミュニティカフェでお弁当作り



アウトドアイベントにて

これまで月 1 回のイベント開催を中心に活動を展開し、仲間の輪を広げてきたくるみ。今後は単発のイベントの発展形として、地元で拠点を持った事業を立ち上げていきたいと太田さんは考えています。そこで一番意識しているのは“自分の息子の居場所を作る”こと。活動のパワーを持続させるためにも「自分の息子のため」という部分にこだわっているといます。立ち上げる事業についても、就労継続支援 B 型や生活介護といった形にとらわれるのではなく、息子がそこで「自分は生きている」と感じられるような居場所を作ることがテーマで、これを“小さくてもいいから排除されることのない社会”のモデルとして周囲に発信していくことが、くるみの次の目標です。

シングルファザーの太田さんがこれだけの活動を行っていることに大変驚くとともに、描かれている理念やビジョンは本当にすばらしいと感じました。本来なら子育てだけでも大変なのにこのパワーには感心してしまいます。これからも、くるみと太田さんの活躍を応援していきたいと思います。（おやぢの会 杉山雅治）